

未来の甲府について知る 甲府市長を講師に講演会を実施

協同組合山梨異業種交流青中倶楽部(大沢正聖理事長 組合員60社)は10月26日ジットセレモニーにおいて、樋口雄一甲府市長を講師に、「地元の行政について学び未来を考えよう」をテーマの研修会を開催した。



講師の樋口甲府市長

今回は約30名の組合員が出席し、市長の考える未来の甲府(山梨県)像を知ることにより、時代の流れをとらえ柔軟な企業経営を展開する方向について役立つ研修会となった。講演の後には活発な質疑

応答が交わされ、組合員の県都甲府の将来に対する関心の高さがうかがえた。

組合は異業種の組合員であることから、共通の利害で組合の活動目標を設定することが難しい。一方、業種や事業が異なった組合員同士が多面的に情報交換することで、新たな組合員間連携によるビジネスチャンスが生まれてくることを期待している。そのため、情報提供委員会・福利厚生委員会・教育研修委員会の3つの委員会がそれぞれ企画・実施し、時宜をとらえた様々なテーマで教育研修事業を実施し、多様な組合員のニーズに幅広く応えていくこととしている。

最近の研修会では、来年1月より始まるマイナンバーをテーマに、制度の概要や具体的に何の準備が必要であるかを明確にすることで、会員が自社での



研修の様子

対策を円滑に行えるものとなつた。また「町の酒屋から日本一そして業務拡大へ」をテーマにした講演では、商品に付加価値をつけることで事業存続の危機を乗り切る事例から、事業転換のポイントや会社経営改善につながる講演となった。

組合では、今後も定例的に研修を開催し、組合員企業の経営向上と組合員の更なる拡大・募集を目指していく。